



スキャメラ技術を磨き、「きらりと光る」ものづくりに邁進

ニューリー株式会社 京都府久世郡久御山町

新コンセプトのスキャナとして注目が集まる「スキャメラ」を開発したニューリー株式会社（京都府久世郡久御山町）は、これまで困難であった立体物のスキャニング技術確立し、スキャメラの用途と可能性を拡大してきた。

2009年7月、同社のスキャメラ技術が「第3回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞（製品・技術開発部門）」を「スキャナの常識を破るあらゆる物体表面の画期的質感デジタル化を実現したスキャメラ」のテーマにて受賞するなど、同社の技術力とその先進性は高く評価されている。

古墳等の壁画をはじめとする文化財等のデジタル化、レプリカ制作、絵画、工芸品、映画ロケなど、多分野で実用化されている。

会社概要



会社名：ニューリー株式会社
所在地：京都府久世郡久御山町
佐古外屋敷 125

電話：0774-43-3011

FAX：0774-44-9288

設立：1979年8月10日

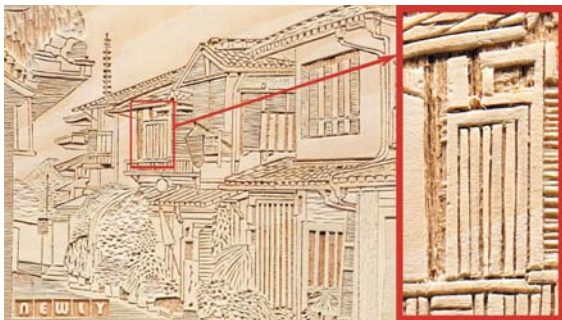
代表者：代表取締役社長 井田 敦夫

資本金：5,584万円

従業員：143名

事業：イメージスキャナ、画像処理ソフトウェア、検査装置、X線機器、自動化機器の開発・製造・販売・サポート

URL：<http://www.newly.co.jp>



凹凸感のあるスキャメラ画像とその部分拡大（右）

顧客の要望に応えていくことで独自技術を確立

ニューリー株式会社は、1979年の創業以来、まさしく社名の如く常に「心新たに」さまざまなモノづくりに挑戦してきた。同社は、1979年に大手製版機器会社の協力会社としてスタート。2001年に社長に就任した井田氏は、大手企業がスキャナからの撤退を開始するなか、苦境をチャンスと捉え、敢えてスキャニングのコア技術にこだわりながら、立体物に焦点を当ててスキャナの世界をひろげようという視点で開発を始めた。

独自製品の開発を模索していた当時、オークションのカタログ用スキャンという特注品の依頼を受けた。その後も、複製レベル、原画に近い複製レベルと顧客の要望に応えていくことで、同社のコア技術を確立していった。

顧客から色々な形状のものをスキャニングしてほしいという要望があっても「技術者として出来ないとは言えませんでした」と井田社長は語っている。顧客の要望に対して真摯に取り組む姿勢が同社成長の原動力となっている。

進化を続けるスキャメラ技術と多様な用途展開

スキャメラは、スキャナが持つ平面の解像度の優位性と、カメラが持つ立体感の優位性の双方の要素を併せ持ち、人の見る見方を導入した新しいコンセプトのスキャナである。あらゆる三次元の対象物をリアルに二次元化して立体物の質感を再現でき、アナログ的な人の感性を引き出して、恒久的に残るデジタルデータを創出する。

油絵の凹凸感あるタッチや金箔、刀剣など光沢物もぎらつくことなく綺麗に再現できる。また、古美術品の凹凸や質感も忠実に読み取り立体感を再現できるため、古墳等の壁画をはじめとする文化財等のデジタル化、レプリカ制作、絵画、工芸



思わず手を伸ばしたくなるほどリアルなスカメラ画像

品、映画ロケなど、多分野で実用化されている。

運転免許証や電子基板などの平面物だけではなく、タイヤやビン類など立体物・円筒物などにも対応している。スカナサイズも A0～A3 だけでなく、2m サイズの超大型からデジタル顕微鏡スカナまで、様々な高精細スカナを揃えている。

特に超大型デジタルアーカイブスカナ「スカメラ・ミュージアム」は、屏風、襖等、2m×2m の超大判でかつ高精細な読取りを必要とする難題、重要課題原稿を得意としている。紫外線をカットした低照度光源で、非接触により画像を取り込むため対象物を傷めにくい。

更に、スカメラ技術と組み合わせて、プリント基板実装に使うメタルマスク版をスカナ方式の画像で検査するシステムや、捕虫シートに付着した害虫等の発生状況調査・分析（数と種類の自動計測）、コンクリート建物の内部を検査するスティック型スカナ（佐賀大等との共同開発）など、さまざまな用途に広がっている。

最近では、昨年 2 月、超大物（5m～10m）の対象物の超高精細空間スカン撮影と、その超高精細画像を巨大紙上に実物大でプリント再現するサービスを開始した。壮大なランドスケープ画像の壁紙や、壁画・屋外景観等の動かさない歴史的資産のアーカイブ、装置・自動車等の大型ポスターなど、限らない活用が想定されている。



パノラマ撮影した東京・上野公園

また、昨年 9 月には、埴輪や茶器等の立体物（30cm 四方）を上下面と全周囲からスカンし、

6 面図や全周囲側面図を自動作成するスカナ「キューブ・スカメラ」を発売した。

スカメラをより身近なものに

同社は機器の販売だけでなく、文書や図面のほか、取扱いの難しい美術品、額付絵画から各種立体物など大判～微小サイズの対象物をスカニングするサービスも実施している。また、博物館やお寺などへ出張し、持ち出しが困難な貴重な超大判古典籍、絵画などをスカンする「フィールドスカンサービス」も行っている。

また、各地域の町おこしや歴史的価値の高いものの継承にも積極的に取り組んでいる。

本社ショールーム「ニュージウム」では、スカニング事例の公開ギャラリー展示を行っており、高精細デジタル再現で「本物」の質感と迫力の展示品の数々を見ることができる。



奥行き感のある京都実相院「床緑」のスカメラ画像（上）と「ニュージウム」（左）

「きらりと光る」モノづくりに邁進

昨年 7 月、同社のスカメラ技術が製造業振興に貢献した人を表彰する「第 3 回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞（製品・技術開発部門）」を受賞したほか、2008 年度「発明奨励賞」、2009 年度「発明協会会長奨励賞」と 2 年連続で近畿地方発明表彰を受賞するなど、同社の技術力とものづくりへの積極的な挑戦が高く評価されている。

同社は、コア技術の向上に努め、あらゆるモノづくりの基礎となる「感性・品質・サービス」にこだわりながら、「きらりと光る」モノづくりに邁進している。（島田清彦）